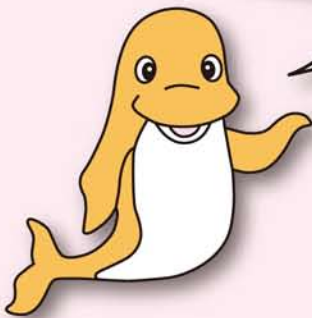


ねっとわーく通信

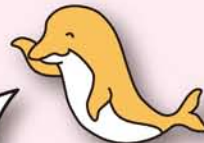
こんにちは！**まもりん**です。
見守りめぐねっとにたくさんの仲間が増えました。
もっと見守りの輪を広げてもらいたくて、
まもりんのステッカーを作りました。
区内でたくさん**まもりん**が見られるといいな…



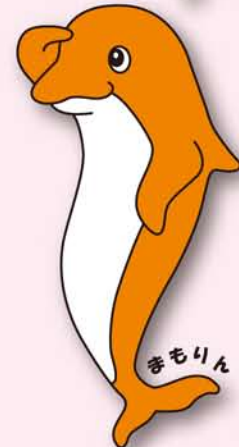
バイクや車でお弁当
を配達するんだね！



お年寄りにやさしい
お店だね！



元気で
イルかな？



目黒区高齢者見守りネットワーク
キャラクター

「見守りめぐねっと」とは

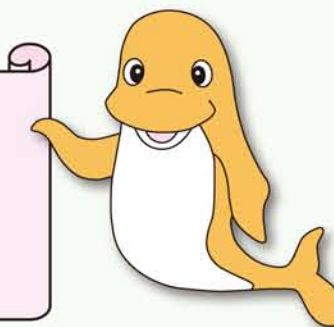
地域の皆さんが、高齢者の「ちょっと気がかり」なことに気づいたときに包括支援センターへ連絡いただくことで、高齢者をゆるやかに見守っていく取り組みです。

これから、各地区の包括支援センターが中心となって、PRキャラクター**まもりん**の活躍の場を増やしていきます。

多くのかたに関心を持っていただき、いくつもの「見守りの輪」を作っていきます。ご協力をお願いします。

— 支え合いの心で、高齢者に安心なまちを —

特集 認知症の人が安心して暮らせるまちに



認知症は、誰でもかかる可能性のある脳の病気で、85歳以上では4人に1人にその症状があるといわれています。目黒区では、何らかの認知症の症状がある人が約5,800人、そのうち見守りや支援が必要な人が約4,100人と推計されています。

認知症にかかると、もの忘れがひどくなる、時間や場所が分からない、理解・判断力が衰えるなどの「中核症状」のほかに、その人の性格や環境などさまざまな要因がからみあって、うつ状態、徘徊（はいかい）、妄想などの「行動・心理症状」があらわれます。

しかし、地域全体で認知症の人を見守り、必要な医療やサービスを受けられるようにしたり、周りの人が理解し支えていくことで、認知症になっても、地域で安心して暮らしていくことができます。

こんなことに気づいたら

☎ ご本人や家族に包括支援センター（裏面参照）への相談を勧めたり、包括支援センター、警察、消費生活センターへご連絡ください。

🍀 認知症を早期に発見するために…

- ・ひとり暮らしのかたなどが認知症になり、気づかれずに症状が悪化してしまうことがあります。
- ・「話がかみ合わない」「お金の支払いができない」「季節に合わない服を着ている」など、周囲の気づきが大切です。
- ・認知症は、早期発見・早期治療が大事です。治る病気の場合や、薬で進行を遅らせることができる場合もあります。環境を整えることで、症状を抑えることもできます。



🍀 家に帰れなくなってしまうのでは…

- ・認知症の「行動・心理症状」の1つに徘徊（はいかい）があります。
- ・ただ無目的に歩き回るといってではなく、ご本人なりの目的はあると言われていたのですが、自分のいる場所が分からなくなり、道に迷ってしまうことがあります。
- ・「おかしいな」と思ったら声を掛けてみて、家に帰れなくなっているようであれば、警察（電話：110番）や包括支援センターへご連絡ください。



🍀 消費者被害に遭っているのでは…

- ・点検を装って訪問し、必要のない工事を勧めたり高額な羽毛布団・浄水器を販売するなど、悪質業者は、判断能力が低下している認知症の高齢者の状況につけ込んできます。
- ・表面化するまでに時間がかかり、その間に被害が拡大してしまうこともあります。
- ・見掛けない人が頻繁に出入りしている、見慣れない新しい商品があるなど、おかしい様子に気づいたら、目黒区消費生活センター（電話：3711-1140）や包括支援センターにご相談ください。



🍀 家族が疲れ切っているようで心配…

- ・認知症の人を介護している家族は、もの盗られ妄想や攻撃的な言動などに悩んだり、排泄の混乱や夜間の興奮への対応などで疲れ切っている場合があります。
- ・認知症の介護を家族だけで抱え込むことは危険で、高齢者虐待につながる恐れもあります。
- ・包括支援センターでは、介護保険などのサービスの利用や「介護者の会」への参加などで、介護者が穏やかな暮らしを続けられるようサポートします。



認知症の人を地域で支える

🍀 認知症の人の気持ち

認知症の人は「何もわからない、何もできない」わけではありません。感情やその人らしさは保たれています。今まで行えていたことができなくなった自分を自覚して、不安や苦しみを感じています。

🍀 みんなで認知症の人を支える

周りの人がその気持ちを理解し、支えることで、認知症になっても、住み慣れた地域で、その人らしく穏やかに暮らしていくことができます。

近所の認知症の人が道に迷っていたら家まで送っていく、買物に来店した認知症の人に急がせずゆっくり対応するなど、普段の生活や仕事の中で、さりげなく認知症の人を支えていく地域づくりが求められています。



認知症サポーターを養成しています

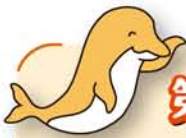


認知症サポーターは、認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かい目で見守る「応援者」です。

区が開催した講座や包括支援センターなどによる出前講座を受講し、これまでに約3千人の区民がサポーターになっています。



平成23年度の区主催の講座は7月と12月の2回。8月から9月には「ステップアップ講座」も開催します。詳しくは、めぐろ区報でお知らせします。（写真は、平成22年度から開催している小学校での講座）



第2回目黒区高齢者見守りネットワーク連絡会が開催されました

平成23年1月20日、総合庁舎大会議室で、第2回目黒区高齢者見守りネットワーク連絡会が開催されました（右写真）。

この連絡会は、見守りめぐねっとの協力団体・協力機関の代表者や包括支援センター職員などが出席し、毎年1回開催しているものです。

初めに青木区長から「見守りめぐねっとを、区民の皆さんと公的機関のチームプレーで、幅広いしなやかなネットワークにしていきたい」との挨拶がありました。その後、昨年11月にNHKのニュース番組で取上げられた内容の紹介や、スタートしてから1年間の取組みの報告が、意見交換を交えながら進められました。



見守りめぐねっど・この1年の取組み



○ PRキャラクター「まもりん」を活用した啓発活動

キャラクター名の募集を通して見守りめぐねっとの広報を行うとともに、まもりんを活用し、「目黒のSUNまつり」でスタンプラリーなどのPR活動を行いました（左写真）。

○ 協力機関連携会議の開催

平成22年3月、7月、12月の3回、警察署、消防署、権利擁護センター「めぐろ」の職員が参加し、安否確認のための立ち入り、行方不明高齢者の捜索、高齢者の金融被害の実態などについて、意見交換・情報交換を行いました。

○ 地域での顔の見えるネットワークづくり、協力事業者の拡大

包括支援センターの職員が、それぞれの地区の新聞販売店、牛乳販売店、そば店、郵便局、交番などを訪問し、ネットワークづくりを進めました。

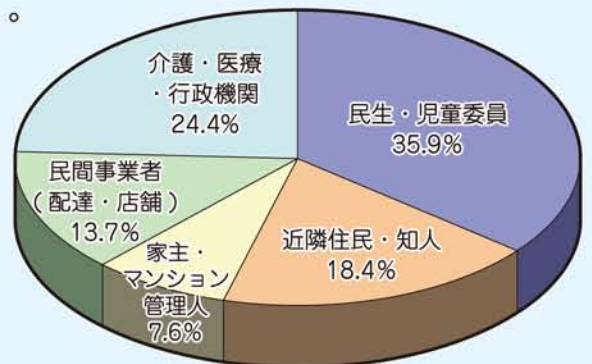
協力事業者には、信用金庫、コンビニエンスストア、スーパーマーケットなどが加わり、登録事業者は149事業者に増えました（2月末現在）。

○ 平成22年の通報・相談件数は315件

高齢者の見守りや安否確認について各包括支援センターに寄せられた通報や相談（本人や親族以外からのもの）は、年間で315件でした。

通報・相談者の内訳は右グラフのとおりで、民生・児童委員が約3分の1を占めています。

安否確認の通報から救助につながったケースも4件ありました。



高齢者の「ちょっと気がり」なことに気づいたら

- 北部包括支援センター……5428-6891
- 東部包括支援センター……5724-8030
- 中央包括支援センター……5724-8066
- 南部包括支援センター……5724-8033
- 西部包括支援センター……5701-7244

まもりん今日このごろ

区のホームページで、まもりんの日頃の活動をお知らせしています。

目黒区まもりん今日このごろ

検索

